

日本語ワードプロセッサ検定試験の級別合格率にみる ハードウェア及びアプリケーションソフトとの関係

菊地紀子

A Study of Passing Certification Examination

Noriko KIKUCHI

In order that this investigation may compensate a student's sense of purpose and volition, it replaced educational environment and has improved lesson form and the contents of a lesson.

And the results of the Japanese word processor certification examination is reported.

The test questions of the 3rd level and semi2 level of a Japanese word processor certification examination has a table of a fixed form.

Students who touched the keyboard for the first time can complete this test question during the second half or spring vacation.

This is because it has been helped by the performance of the machine, and the improvement in Japanese conversion software.

Also the possibility of passing the 3rd level and semi2 level of a Japanese word processor certification examination was suggested.

The test questions of the level above the 2nd level of a Japanese word processor certification examination has a complicated table and a complicated map.

The performance of the machine and the improvement in Japanese conversion software has helped increase the speed of input.

However, it was suggested that the operability and intelligibility of application software are important for the complicated creation of a table or a map.

はじめに

前報¹⁾の検定試験合格の可能性と入力文字数の関係の結果から、ワープロ検定既取得者は、検定取得時と同レベルを維持するには、継続的な練習が必要であることが示唆された。また、キーボード操作経験者および未経験者は、日本語ワードプロセッサ検定試験合格に向けて、どれだけ意欲的に取り組んだかによって、結果に大きな違いがみられ、以前にも報告²⁾したように、学生の目的意識、意欲が大切なことが再確認された。

今回は、学生の目的意識、意欲を補うべく、教育環境を表1のように入れ替え、これまで報告¹⁾²⁾³⁾したように、授業形態や授業内容を表2、表3のように改善

し、表4の条件の下に、日本語ワードプロセッサ検定試験を受験した結果について報告する。

教育環境

教育環境を表1に示した。

教育環境は、1998年度までソフトウェアは、オペレーティングシステムにはMS-DOS、アプリケーションソフトにはFM-OASYSを使い、ハードウェアは、ハードディスクのないFMR-50FXを使っていた。1999年度にハードウェアをFMV-6350DX2とし、ソフトウェアをオペレーティングシステムはWindowsNT、アプリケーションソフトはMS-Word98とした。さらに2000年度には、アプリケーションソフトをMS-Word2000とした。

表1 教育環境

年度	オペレーティングシステム	アプリケーションソフト	ハードウェア
1998	MS-DOS	FM-OASYS	FMR-50FX
1999	WindowsNT	MS-Word98	FMV-6350DX2
2000	WindowsNT	MS-Word2000	FMV-6350DX2

授業形態

授業形態を表2に示した。

授業形態は、1998年度は前後期通年授業、春休み選択授業として開講した。1999年度以降は、前後期通年授業、春休み選択特別講座(検定対策)として開講した。

表2 授業形態

年度	前期	後期	春休み
1998	必修授業	必修授業	選択授業
1999	必修授業	必修授業	選択検定対策特別講座
2000	必修授業	必修授業	選択検定対策特別講座

授業内容

授業内容を表3に示した。

授業内容の違いとしては、1998年度と1999年度は、春休みの開講を、前者は選択授業、後者は選択特別講座とした。1999年度と2000年度は、前者は特に目標を設けてはなかったが、後者は前期入力文字数300文字を目標に、キーボードのキー配列や指使い、ローマ字綴りの試験を合格するまで行った。

表3 授業内容

年度	前年度との相違点
1998	検定合格基準に基づき、前後期必修授業、春休み選択授業を行う。
1999	春休みを授業ではなく、選択の検定対策特別講座とする。
2000	前期必修授業の単位認定に入力文字数300文字を条件とする。

日本語ワードプロセッサ検定受験の条件

日本語ワードプロセッサ検定受験の条件を表4に示した。3級受験者は、日本語ワードプロセッサ検定未取得者とした。未取得者とは、いまままでに1度も日本語ワードプロセッサ検定試験を受験したことがない者、及び受験したが合格したことがない者とした。準2級以上の上位級は、各々下位級既取得者及び、受験申込み時に入力文字数が前報¹⁾同様、検定合格基準(表5)より50文字少ない合格可能性ラインに到達した者とした。

表4 日本語ワードプロセッサ検定受験の条件

級	条件
3	日本語ワードプロセッサ検定未取得者
準2	3級既取得者及び受験申込み時入力文字数350文字以上
2	準2級既取得者及び受験申込み時入力文字数450文字以上
準1	2級既取得者及び受験申込み時入力文字数550文字以上
1	準1級既取得者及び受験申込み時入力文字数650文字以上

日本語ワードプロセッサ検定合格基準

日本ワープロ検定協会主催の日本語ワードプロセッサ検定合格基準のうち、入力科目の合格基準を表5に示した。

表5 日本語ワードプロセッサ検定入力科目合格基準(主催:日本ワープロ検定協会)

級	入力文字数
3	300以上
準2	400以上
2	500以上
準1	600以上
1	700以上

日本語ワードプロセッサ検定試験問題

日本ワープロ検定協会主催の日本語ワードプロセッサ検定試験問題のうち、文書作成・技巧科目の試験問題を表6～10に示した。

主催 日本ワープロ検定協会
第42回 日本語ワープロ検定試験問題
3級(通信文)

平成12年2月20日

市民の皆さまへ

交通情報センター
所長 森脇 武史

自家用車メンテナンス講習会のご案内

前略 安全運転をしていただくために、車の簡単な点検のしかたや、トラブルの予防・早期発見などができるようになる講習会を開催いたします。
つきましては、車の健康管理のためにも、お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、気軽にご参加ください。

草々

記

1. 参加料金 500円
2. 定員 各20名(応募多数の場合は、抽選となります)
3. 申込方法 別紙申込書を3月3日必着で、当センターへお送りください。
4. 日程

会場	開催日	時間
池原市文化会館	3月13日(月)	13:00~16:00
堀川自動車学校	3月18日(土)	9:30~12:30
かしま勤労会館	3月22日(水)	13:30~16:30

以上

表7 文書作成、技巧科目準2級問題

主催 日本ワープロ検定協会
 第42回 日本語ワープロ検定試験問題
 準2級(通信文)

〔文書番号〕 松書発第36号
 〔発信日付〕 平成12年2月20日
 〔受信者名〕 北川テニスサークル
 会長 秋田 美恵 様
 〔発信者名〕 松富書房株式会社
 編集長 石坂 弘達
 〔件名〕 原稿募集のお知らせ
 〔本文〕 拝啓 晩冬の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも「コスモス」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。
 さて、来月号より無料掲示板コーナーを掲載することになりました。応募方法などは下記のとおりとなっておりますので、情報収集やお仲間募集などにご利用くださいますようお願いいたします。
 敬具
 〔別記〕 記
 1. 申込方法 応募用紙に必要事項を記入のうえ、郵送またはFAXでお送りください。
 2. 申込先 藤岡市西落合4-72 月刊コスモス編集部
 FAX(0492)81-5611
 3. 注意事項 営利目的の原稿は広告扱いになります。
 4. 掲載内容

伝言板	仲間募集や探し物など
譲ります	家庭の不要品を無料で差しあげる情報
譲ってください	新品・中古にかかわらず譲ってほしい物
イベント情報	公共施設での催事案内や町内会等のイベント紹介、個人や各種団体の展示会・講演会の告知など

以上

表8 文書作成、技巧科目2級問題

主催 日本ワープロ検定協会
 第42回 日本語ワープロ検定試験問題
 2級(通信文)

〔文書番号〕 みやび発第36号
 〔発信日付〕 平成12年2月20日
 〔受信者名〕 フランニング株式会社
 秘書課 井坂 香織 様
 〔発信者名〕 みやび和風工房

代表 及川 すみれ
 〔件名〕 茶道教室開催のご案内

〔本文〕 拝啓 余寒の候、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
 さて、当教室では初めての方にもわかりやすく、作法と知識をご指導する講習会を開催いたします。茶道を日常生活に取り入れて、ゆとりの時間をすごしてみませんか。
 つきましては、ぜひこの機会にご参加くださいますよう、下記のとおりご案内申し上げます。

敬具
 〔別記〕 記

1. 時 間 13時30分～15時30分
2. 定 員 25名(定員になり次第締め切り)
3. 講習内容

期 日	内 容	受講料
3月	11日(土) ご家庭で気軽に楽しむ、抹茶のいただき方、お客さまへの出し方などを学びます。	2,300円
	12日(日)	
	18日(土) いざという時に困らない茶の湯の基礎を学び、教養としての茶道を身につけます。	3,500円
	19日(日)	

※受講料は税込みです。

4. 申込方法 下記申込書と受講料を合わせて3月1日(水)までに、当教室までにご送付ください。

5. 場所・申込先 みやび和風工房 ※別紙詳細参照
 以上

 参加申込書

お名前 _____ TEL _____
 住 所 _____
 希望日 _____

表9 文書作成、技巧科目準1級問題

主催 日本ワープロ検定協会
 第42回 日本語ワープロ検定試験問題
 準1級(通信文)

〔文書番号〕 ヒロセ発第18号
 〔発信日付〕 平成12年2月20日
 〔受信者名〕 さわやかクラブ
 部長 大城 和志 様
 〔発信者名〕 ヒロセ体操教室
 代表 小幡 慎一郎
 〔件名〕 新規会員登録のご案内
 〔本文〕

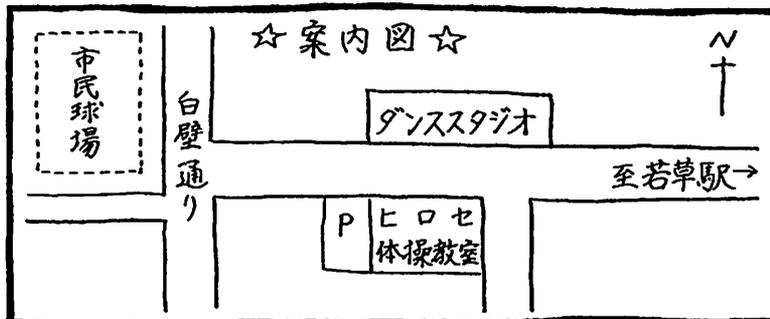
前略 将来体操競技への参加をお考えの方はもちろんのこと、これから取り組んでみたいと意欲をお持ちの方、施設・指導者の充実した当教室で頑張ってみませんか。
 つきましては、下記のとおり会員を募集いたしますので、ぜひご入会くださいますようご案内申しあげます。
 なお、毎月第2土曜日に無料レッスンを実施いたしておりますので、気軽にご参加ください。

〔別記〕

- 草々
 記
 1. 対象 衆 小学生から高校生まで
 2. 募集内容

コース名	内 容	月会費
こども体操	マット、鉄棒、平均台などを使用して各種目の技術の習得と基礎体力を養成します。	5,000円
新体操	ボールやリボンを使いリズム感や柔軟性、集中力などを養い、美しい身体を作ります。	4,000円
専 門	専門家による指導のもと、各種大会への出場を目指すことにより、精神的にも体力的にも成長します。	10,000円

3. 練習日・時間 別紙参照
 4. 教室場所 ヒロセ体操教室
 熊本市荒川町3-27
 TEL(096)35-6125



以上

表 10 文書作成、技巧科目 1 級問題

主催 日本ワープロ検定協会
第 4 2 回 日本語ワープロ検定試験問題
1 級 (通借文)

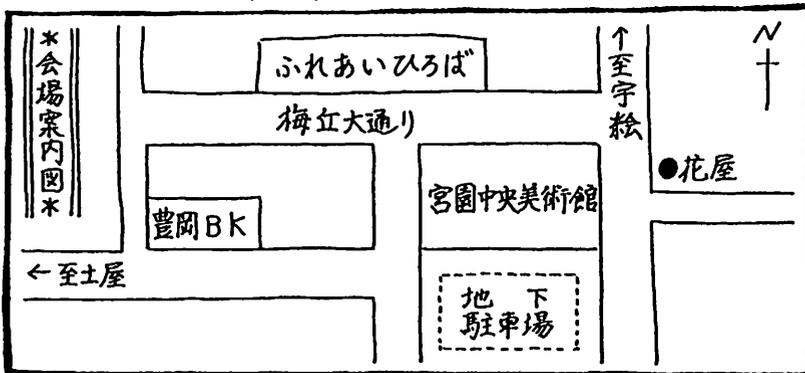
〔文番番号〕 宮中美苑第 3 / 号
 〔発借日付〕 平成ノ2年2月20日
 〔受借者名〕 JSリサーチ株式会社
 取締役 古橋 年春 様
 〔発借者名〕 宮園中央美術館
 館長 長谷部 亮吉
 〔件名〕 3月の企画展について
 〔本文〕 拝啓 浅春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
 さて、3月の企画展「未来への予感」では、画面から大きな広がりを感じる日本画を中心にご紹介いたします。絵のなかの空間の美しさには、それぞれの作者の希望や願いが込められています。
 つぎましては、企画展をテーマにした関連企画も合わせて開催いたしますので、ぜひご鑑賞くださいますようお願い申し上げます。

〔別記〕

- 敬 具
 記
 1. 開催期間 3月1日(水)～3月31日(金)
 2. 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 3. 休館日 月曜日
 4. 入館料 大人800円、高・大学生600円、小・中学生400円
 5. 関連企画

期 日	時 間	内 容	場 所
4日(土)	14:00 ↓ 15:45	◎美術鑑賞会 展示テーマに合わせてスライドを交えて解説します。	第 1 展示室
19日(日)	15:00 ↓ 16:30	◎ハンドベルコンサート ベルの音色は温かく、空間に響きわたり心が豊かになります。	第 3 展示室

※入館料のみでのご鑑賞いただけます。
 6. 開催場所 宮園中央美術館 大展示室
 東京都品川区湊5-10-27



以上

結果および考察

級別合格率推移を表11に示した。

表 11 級別合格率推移

3級	検定期後期授業中 12月			検定期 春休み 2月			年度合計		
	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%
1998	306	125	41	46	38	83	352	163	46
1999	57	32	56	7	7	100	64	39	61
2000	77	47	61	1	1	100	78	48	62

準2級	検定期後期授業中 12月			検定期 春休み 2月			年度合計		
	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%
1998	3	1	33	58	38	66	61	39	64
1999	7	6	86	13	10	77	20	16	80
2000	18	17	94	11	10	91	29	27	93

2級	検定期 後期授業中 12月			検定期 春休み 2月			年度合計		
	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%
1998	0	0	0	9	8	89	9	8	89
1999	2	1	50	2	1	50	4	2	50
2000	4	1	25	13	5	38	17	6	35

準1級	検定期 後期授業中 12月			検定期 春休み 2月			年度合計		
	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%
1998	1	0	0	0	0	0	1	0	0
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	2	0	0	0	0	0	2	0	0

1級	検定期 後期授業中 12月			検定期 春休み 2月			年度合計		
	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%	受験者数	合格者数	%
1998	0	0	0	1	1	100	1	1	100
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〈3級合格率〉

3級の合格率を検討した結果、後期授業中に実施した検定では、1998年度から2000年度にかけて、41%、56%、61%と年々合格率が上昇した。前報¹⁾でも報告したとおり、阿部⁴⁾により、ワープロ経験がないと判断できる学習者について、入力文字数の伸びの程度は、学習者によるばらつきが非常に大きかったと報告されている。また、浅木森ら⁵⁾により日本語入力に関しては、タッチタイピングの技術以外に、読みの入力からかな漢字まじり文への変換操作の効率よい技術習得が必要

との報告もある。3級を受験する学生は、入学時のアンケート結果によると、ほとんどがキーボード操作未経験者であった。1998年度と1999年度で、合格率が15%増加したのは、教育環境を表1のように入れ替えたため、機械の性能や日本語変換ソフトが向上し、文字変換の効率など、学生の練習以外の要因も考えられる。1999年度と2000年度で、合格率が5%増加したのは、授業内容を表3のように改善したためではないかと推察される。

春休みに実施した検定では、1998年度は合格率が83

%であったが、1999年度以降100%となった。1998年度では授業として開講したため、単位取得のためだけに受講し、受験した学生も含まれていたため、合格率が100%に至らなかったのではないかと推察される。それに対して、1999年度以降は特別講座として、単位認定のない、検定合格を目的とした開講に変更したため、合格率が100%になったと推察される。

各年度合計でも1998年度から2000年度にかけて、46%、61%、62%と年々合格率が上昇した。これは、先にも述べたとおり、教育環境を表1のように入れ替え、授業形態や授業内容を表2、表3のように改善したためではないかと考えられる。しかし、1999年度と2000年度を比べると、合格率がほぼ変わらず、さらに授業内容の検討が必要であることが示唆された。

〈準2級合格率〉

準2級の合格率を検討した結果、後期授業中に実施した検定では、1998年度から2000年度にかけて、33%、86%、94%と年々合格率が上昇した。準2級は表4のとおり、3級既取得者及び受験申込み時に、入力文字数が350文字以上になった者が受験した。前報¹⁾で報告したとおり、ワープロ検定既取得者は、検定取得時と同レベルを維持するには、継続的な練習が必要である。1998年度と1999年度で、53%増加したのは、1998年度では本人の練習に寄与するところが大きかったが、1999年度以降、教育環境を表1のように入れ替えたため、機械の性能や日本語変換ソフトが向上し、文字変換の効率など、学生の練習以外の要因も考えられる。また、1999年度と2000年度で、8%増加したのは、授業内容を表3のように改善したためではないかと推察される。

春休みに実施した検定では、1998年度から2000年度にかけて、66%、77%、91%と年々合格率が上昇した。1998年度と1999年度では11%、1999年度と2000年度では14%と2桁の増加をみた。これは前報¹⁾で報告したとおり、ワープロ検定既取得者は、検定取得時と同レベルを維持するには、継続的な練習が必要である。一方、練習不足であっても、キーボード操作未経験者と同レベルに戻ることはなく、練習次第でさらに上位級合格が可能であることが示唆された。

各年度合計でも1998年度から2000年度にかけて、64%、80%、93%と年々合格率が上昇した。これは、先にも述べたとおり、教育環境を表1のように入れ替え、授業形態や授業内容を表2、表3のように改善したためではないかと考えられる。しかし、同じ年の中で検定実施時期として、後期授業中と春休みを比較検討した結果、1998年度は合格率が33%増加したが、1999年

度では9%減、2000年度では3%減であった。これは、1998年度では、機械の性能や日本語変換ソフトなど文字変換の効率の悪さが考えられ、そのため本人の練習に寄与するところが大きく、後期授業中(12月)までの練習期間では合格は難しく、春休み(2月)までの練習期間が必要であったことが示唆された。1999年度以降は、機械の性能や日本語変換ソフトなど文字変換の効率が向上したので、後期授業中に3級合格に至らなかった学生でも、春休みには入力文字数だけは準2級受験の条件にまで到達するようになった。そのため準2級を受験したが、入力文字数の条件達成だけでは検定合格には不十分であったと考えられる。その結果合格には至らなかったため、わずかではあるが合格率が減少したのではないかと推察される。

〈2級合格率〉

2級の合格率を検討した結果、後期授業中に実施した検定では、1998年度から2000年度にかけて、受験者0%、50%、25%であった。また、春休みに実施した検定では、89%、50%、38%であった。検定受験の条件を準2級既取得者及び、受験申込み時入力文字数450文字以上(表4)としているため、1998年度では後期授業中には該当者がいなかった。1999年度、2000年度と受験者が増加しているのは、教育環境の入れ替え(表1)や教育内容の改善(表3)により、後期授業中に入力文字数が2級検定受験の条件にまで到達するようになったことが考えられる。しかし、合格率で検討してみると、1998年度の春休みが89%と最高であった。これは、表8の文書作成・技巧科目の2級の問題をみると作表が2つである。表作成に関しては、操作性やわかりやすさの点で、アプリケーションソフトはFM-OASYSが優れている。MS-Wordは、定型の表作成には優れているが、2級の問題のような“複雑な表”や“申込書”になると、自由自在に罫線を引くことが出来るFM-OASYSの方が使いやすく、失敗がないといえる。検定は時間制限の中で、いかに効率よく問題を作成できるかが、合否を分ける鍵となる。文字入力の早さが合格基準に達し、作表以外は完成していたとすると、後はいかに早く表作成が出来るかということになる。1998年度の春休みは、入力文字数が2級検定受験の条件にまで到達していた者が、アプリケーションソフトはFM-OASYSを使用し、受験したため合格率が89%にまでなったと推察される。

各年度合計でも1998年度から2000年度にかけて、89%、50%、35%と年々合格率が減少した。これは、先にも述べたとおり、文書作成・技巧科目の2級の問題に対する、アプリケーションソフト(FM-OASYSと

MS-Word)の操作性の違いが考えられる。そのため、入力文字数が検定合格基準に達するようになった学生に対し、MS-Wordを使い、いかに効率よく、表作成をすることが出来るように指導するかが、今後の課題である。

〈準1級および1級合格率〉

準1級および1級の検定試験の結果は、準1級では受験者はいるが合格しなかった。1級は、1998年度の春休みに1名受験し合格した。いずれも受験者数が少なく、合格率を検討するのは難しいが、文書作成・技巧科目の準1級(表9)、1級(表10)の問題をみると、地図が含まれる。これは、先にも述べたとおり、地図の作成には表作成以上に、アプリケーションソフトの操作性やわかりやすさが重要である。入力文字数が準1級や1級の合格基準にまで達した学生は、機械の性能や日本語変換ソフトなど、文字変換の効率の良し悪しにはあまり影響されることはなく、むしろアプリケーションソフトの操作性やわかりやすさが重要であることが考えられる。

あとがき

今回は、学生の目的意識、意欲を補うべく、教育環境を表1のように入れ替え、授業形態や授業内容を表2、表3のように改善し、日本語ワードプロセッサ検定試験を受験した結果について検討を行った。

3級や準2級のように、定型の表作成を含む問題の場合は、初めてキーボードに触った学生でも、文字変換の効率など、機械の性能や日本語変換ソフトの向上に助けられ、後期授業中や春休み実施の検定に3級や準2級合格が可能であることが示唆された。高橋ら⁶⁾により入力の早さというのは、日本語ワードプロセッサ検定試験合格の一つの目安となるという報告がある。しかし、2級以上の上位級になると、表作成も複雑になり地図も含まれる問題となる。そのため、文字変換の効率など、機械の性能や日本語変換ソフトの向上は、入力の早さを補う手助けにはなるが、表作成や地図の作成には、アプリケーションソフトの操作性やわかりやすさが重要であることが今回の結果から示唆された。今後は、さらに合格率を向上させるために授業内容を改善し、授業時間以外の練習時間を増やすなどの検討を重ね、3級や準2級は受験者全員が合格できるように、また、2級以上の上位級では、限られた教育環境のなかでいかに効率よく表や地図の作成が出来るように指導するか、級別のクラス編成や指導法などの検討を行っていきたいと考えている。

終わりに、本文寄稿にあたりご助言をいただきました増渕久子先生に深謝申し上げます。また、黒田圭一先生には、最初から最後まで懇切丁寧なご指導並びにご校閲を賜り、心より厚く感謝の意を表します。なお、資料を提供していただきました本学非常勤講師横関節子先生に深謝申し上げます。

引用参考文献

- 1) 菊地紀子：帝京短期大学紀要, 11, p.47~51(1999)
- 2) 菊地紀子：帝京短期大学紀要, 9, p.45~51(1993)
- 3) 菊地紀子：帝京短期大学紀要, 10, p.35~42(1996)
- 4) 阿部直哉：自動採点機能を持つワープロ教育支援システムによる学習履歴の収集, 平成9年度情報処理教育研究会講演論文集, p.558~561, 主催 文部省, 室蘭工業大学
- 5) 浅木森和夫, 奥山晃弘, 田中真由美, 松井由佳子：キーボードリテラシーと日本語入力, 平成10年度情報処理教育研究会講演論文集, p.96~99, 主催 文部省, 九州工業大学
- 6) 高橋宗, 吉川英子：自主的学習によるキーボード練習の効果(1), 平成6年度情報処理教育研究会講演論文集, p.312~315, 主催 文部省, 九州大学